

# 新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 家庭科 (共通教科「家庭」))

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 山村 季代

## 1. 新学習指導要領の改訂のポイント

### 1-1 目標の改善

### 1-2 科目編成の改善

### 1-3 各科目の内容の改善

## 2. 新学習指導要領に対応した学習評価

### 2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

### 2-2 単元の学習評価の進め方

# 1 新学習指導要領の改訂のポイント

1 - 1 目標の改善

1 - 2 科目編成の改善

1 - 3 各科目の内容の改善

# 1 - 1 目標の改善

## 家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

柱書き

(1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

思考力、判断力、表現力等

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

# 1 - 1 目標の改善

## 生活の営みに係る見方・考え方

家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，  
協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，  
持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を  
営むために工夫すること。

# 1 - 2 科目編成の改善

## 家庭基礎（2単位）

- 子供を生き育てることや子供と関わる力を身に付けるなどの乳児期に関する内容や、高齢者の生活支援技術の基礎に関する内容の充実。
- 自立した生活者として必要な衣食住の生活や生活における経済の計画などに関する実践力の定着を図るための学習活動の充実。

## 家庭総合（4単位）

- 乳児との触れ合いや子供とのコミュニケーション、高齢者の生活支援技術、グローバル化に対応した日本の生活文化等に関する内容の充実。
- 生活を総合的にマネジメントできるように、健康や安全等を考慮するとともに、生活の価値や質を高める豊かな衣食住の生活を創造するための実践力を身に付けるための学習活動の充実。

2科目のうちいずれか1科目を必修科目として履修すること。

# 1 - 3 各科目の内容の改善

## 小・中学校

A 家族・家庭生活

B 衣食住の生活

C 消費生活・環境

■小・中学校の内容の系統性の明確化を図る。

## 高等学校

A 家族・家庭及び福祉

B 衣食住

C 消費生活・環境

D ホームプロジェクトと  
学校家庭クラブ活動

# 1 - 3 各科目の内容の改善

家庭基礎（2単位）	家庭総合（4単位）
<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫</li></ul> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭</p> <ul style="list-style-type: none"><li>家族・家庭に関する法規に触れることを明記</li></ul> <p>(3) 子供の生活と保育</p> <ul style="list-style-type: none"><li>子育て支援についての理解</li><li>乳幼児と関わるための基礎的な技能</li></ul> <p>(4) 高齢期の生活と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>高齢者の尊厳と介護（認知症を含む）についての理解</li><li>高齢者の生活支援に関する基礎的な技能についての内容の充実</li></ul> <p>(5) 共生社会と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>自助、共助及び公助の重要性についての理解</li></ul>	<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫</li></ul> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会</p> <p>(3) 子供との関わりと保育・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>子供の遊びと文化についての理解</li><li>子育て支援についての理解と工夫</li><li>子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫</li></ul> <p>(4) 高齢者との関わりと福祉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>高齢者の尊厳と介護（認知症を含む）についての理解</li><li>高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能についての内容の充実</li></ul> <p>(5) 共生社会と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>自助、共助及び公助の重要性についての理解</li></ul>

導入として「生涯の生活設計」の項目を新たに設け、AからCまでの内容と関連付けるとともに、まとめとしても指導する

# 1 - 3 各科目の内容の改善

自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容に重点を置く

生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させることに重点を置く

## 家庭基礎（2単位）

### B 衣食住の生活の自立と設計

- ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造についての理解

- (1) 食生活と健康
- (2) 衣生活と健康
- (3) 住生活と住環境

- ・防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫

## 家庭総合（4単位）

### B 衣食住の生活の科学と文化

- ・日本と世界の衣食住の文化についての理解
- ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実

- (1) 食生活の科学と文化
- (2) 衣生活の科学と文化
- (3) 住生活の科学と文化

- ・防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくりの考察、工夫

# 1 - 3 各科目の内容の改善

家庭基礎（2単位）	家庭総合（4単位）
<b>C 持続可能な消費生活・環境</b> (1) 生活における経済の計画 <ul style="list-style-type: none"><li>・家計管理についての理解</li><li>・リスクを想定し、<b>不測の事態に備えた対応</b>についての理解</li></ul> (2) 消費行動と意思決定 <ul style="list-style-type: none"><li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう<b>契約の重要性</b>についての理解</li><li>・<b>消費者保護の仕組み</b>についての理解</li></ul> (3) 持続可能なライフスタイルと環境	<b>C 持続可能な消費生活・環境</b> (1) 生活における経済の計画 <ul style="list-style-type: none"><li>・<b>不測の事態に備えたリスク管理</b>に関する内容の充実</li></ul> (2) 消費行動と意思決定 <ul style="list-style-type: none"><li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう<b>契約の重要性</b>についての理解</li><li>・<b>消費者保護の仕組み</b>について理解</li><li>・消費生活に関する演習を取り入れることを明記</li></ul> (3) 持続可能なライフスタイルと環境
<b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b>	<b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b>

小・中・高校の系統性や、成年年齢の引下げを踏まえ、内容C「持続可能な消費生活・環境」として新たに位置付けた

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図った

## 2 新学習指導要領に対応した学習評価

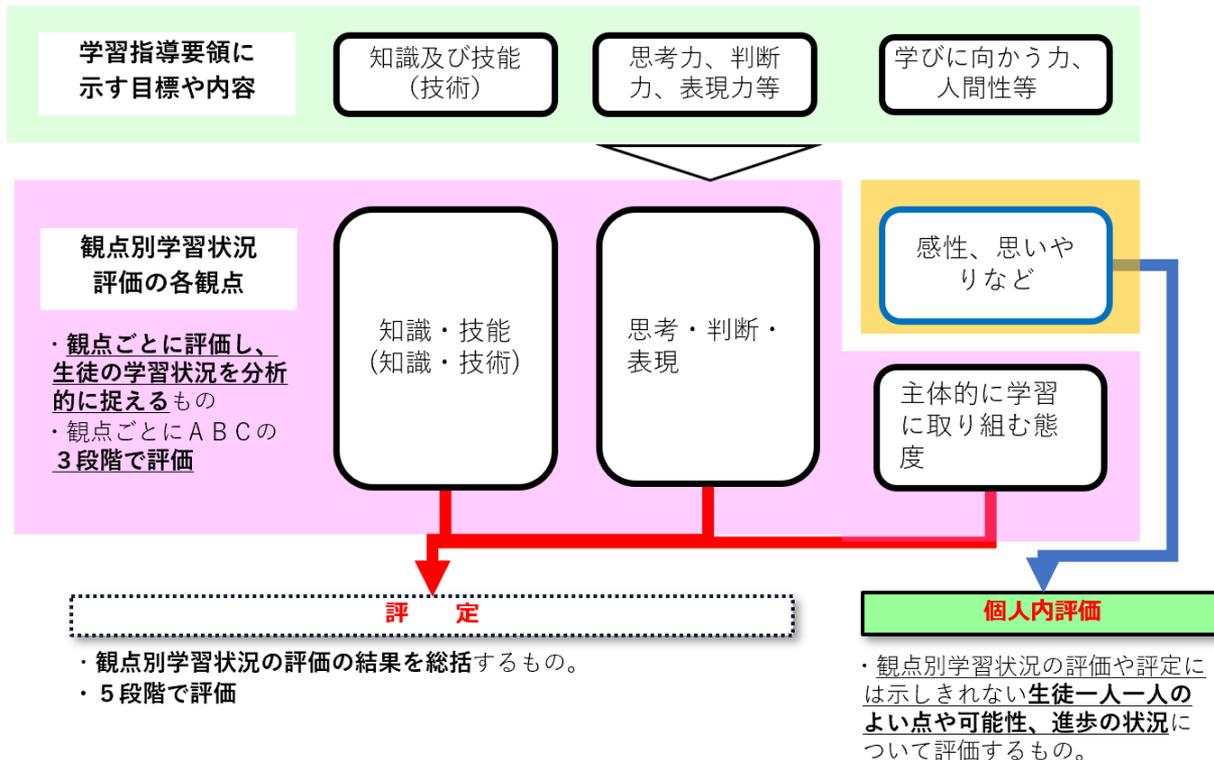
2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

2-2 単元の学習評価の進め方

# 2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

## (1) 学習評価の基本構造

- ・各教科における評価は、**学習指導要領**に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（**目標準拠評価**）
- ・したがって、目標準拠評価は、**集団内での相対的な位置付け**を評価するいわゆる**相対評価**とは異なる。



# 2 - 1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

## (2) 目標と観点の趣旨との対応関係

学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」は作成されている

### 【高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭「第1款 目標」】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

(高等学校学習指導要領p181)

### 【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨 <家庭>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

(改善等通知 別紙5 p4)

# 2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

## (2) 目標と観点の趣旨との対応関係

### 目標と観点の趣旨との対応関係

各学校等において、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する

#### 【高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭「第2款 第1 家庭基礎 1 目標」】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

(高等学校学習指導要領P. 181)



#### 【「第2款 第1 家庭基礎」の評価の観点の趣旨(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに，それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

# 2 - 1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

## (3) 各教科における「内容のまとめり」

### 科目「家庭基礎」における「内容のまとめり」

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| ・ A 人の一生と家族・家庭及び福祉      | (1) 生涯の生活設計         |
| ・ A 人の一生と家族・家庭及び福祉      | (2) 青年期の自立と家族・家庭    |
| ・ A 人の一生と家族・家庭及び福祉      | (3) 子供の生活と保育        |
| ・ A 人の一生と家族・家庭及び福祉      | (4) 高齢期の生活と福祉       |
| ・ A 人の一生と家族・家庭及び福祉      | (5) 共生社会と福祉         |
| ・ B 衣食住の生活の自立と設計        | (1) 食生活と健康          |
| ・ B 衣食住の生活の自立と設計        | (2) 衣生活と健康          |
| ・ B 衣食住の生活の自立と設計        | (3) 住生活と住環境         |
| ・ C 持続可能な消費生活・環境        | (1) 生活における経済の計画     |
| ・ C 持続可能な消費生活・環境        | (2) 消費行動と意思決定       |
| ・ C 持続可能な消費生活・環境        | (3) 持続可能なライフスタイルと環境 |
| ・ D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 |                     |

#### ■ 「内容のまとめり」とは

「内容のまとめり」とは、**学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等**をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの。

# 2 - 1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

## (4) 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係

例：「C 持続可能な消費生活・環境」（2）消費行動と意思決定

### C 持続可能な消費生活・環境

次の(1)から(3)までの項目について、持続可能な社会を構築するために実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

#### (2) 消費行動と意思決定

ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解するとともに，生活情報を適切に収集・整理できること。

イ 自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し，工夫すること。

(実線) …知識及び技能に関する内容

(波線) …思考力，判断力，表現力等に関する内容

※「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有すること等から、「2 内容」に記載がない。

## 2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

### (5) 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する

#### 知識・技能のポイント

- ・ 「知識」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「知識」に関わる事項に示された「～について理解すること」「～について理解を深めること」の記述を当てはめ、それを生徒が「～について理解している」「～について理解を深めている」かどうかの学習状況として表す。
- ・ 「技能」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「技能」に関わる事項に示された「～の技能を身に付けること」「～情報の収集・整理ができること」の記述を当てはめ、それを生徒が「～の技能を身に付けている」「～情報の収集・整理ができる」かどうかの学習状況として表す。

例：「C 持続可能な消費生活・環境」（2）消費行動と意思決定

学習指導要領 2 内容	知識及び技能
	ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解するとともに，生活情報を適切に収集・整理できること。
内容のまとめりごとの評価規準(例)	知識・技能
	消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解しているとともに，生活情報を適切に収集・整理できる。

## 2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

### (5) 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する

#### 思考・判断・表現のポイント

- ・ 「思考・判断・表現」については、**教科及び科目の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価する。**
- ・ **学習指導要領に示す「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項に示された「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」かどうかの学習状況として表すこととする。**

例：「C 持続可能な消費生活・環境」（2）消費行動と意思決定

学習指導要領 2 内容	思考力・判断力・表現力 イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること。
内容のまとめりごとの評価規準(例)	思考・判断・表現 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

## 2-1 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

### (5) 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する

#### 主体的に学習に取り組む態度のポイント

・教科の特質として、①粘り強さ、②自らの学習の調整に加え、③実践しようとする態度を含めることに留意し、「様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、～について、課題の解決に主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている(③)」かどうかの学習状況として表すこととする。

例：「C 持続可能な消費生活・環境」(2)消費行動と意思決定

学習指導要領 2 内容	学びに向かう力、人間性等
	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当科目の目標(3)を参考にする。



内容のまとめりごとの評価規準(例)	主体的に学習に取り組む態度
	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ※ 必要に応じて各教科等の評価の観点の趣旨(「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分)等を用いて作成する。

## 2 - 2 単元の学習評価の進め方

### 評価の進め方

1 単元の目標を作成する

2 単元の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4 観点ごとに総括する

### 留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。
- どのような評価資料(生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況 (B) と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況 (C) への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括評価 (A, B, C) を行う。

# 2-2 単元の学習評価の進め方

## (1) 単元の目標を作成する

### ■単元の設定

- 学習指導要領に基づき、解説に示された配慮事項及び各内容の特質を踏まえるとともに、**内容AからDまでの各項目及び指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り**学習が展開されるように配慮する。
- 学校、地域の実態、生徒の興味・関心や学習経験**を踏まえ、単元を設定する。

### 【高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭「第2款 第1 家庭基礎 1 目標」】

(1)	(2)	(3)
知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

### 【高等学校学習指導要領 単元で扱う内容の項目及び指導事項】

指導項目	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
C(1)	ア（知識及び技能）の指導事項	イ（思考力、判断力、表現力）の指導事項	
C(2)			

単元名：成年として自立した経済生活を営むには

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の目標	自立した生活を営むために必要な家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上をめざして実践しようとする。

## 2 - 2 単元の学習評価の進め方

### (2) 単元の評価規準を作成する

「内容のまとめりごとの評価規準」から、単元において指導する項目及び指導事項に関する部分を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして作成する

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準(例)	C(1) ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。	C(1) イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域や社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	C(2) ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	C(2) イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

単元名：成年として自立した経済生活を営むには

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。</li> <li>消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。</li> </ul>	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

## 2 - 2 単元の学習評価の進め方

### (3) 単元の評価規準を学習活動に即して具体化する

例: 「C持続可能な消費生活・環境」(1)生活における経済の計画

【高等学校学習指導要領 2 内容】

指導項目	知識及び技能
C(1)	ア(知識及び技能)の指導事項

【内容のまとめりごとの評価規準(例)】

	知識・技能
C(1)	「知識・技能」に関わる「内容のまとめりごとの評価規準」

【内容のまとめりごとの評価規準(例)を具体化した例】

知識・技能
・家計の構造や生活における経済と社会との関わり, 家計管理について理解している。

■ 「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化した例

- ・ 「単元の評価規準」の基となっている「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化する。

知識・技能のポイント

- ・ 「知識」については, その文末を, 「～について理解している」, 「～について理解を深めている」として, 評価規準を作成する。
- ・ 「技能」については, その文末を, 「～を身に付けている」, 「…情報の収集・整理ができる」として, 評価規準を作成する。

## 2-2 単元の学習評価の進め方

### (3) 単元の評価規準を学習活動に即して具体化する

例: 「C持続可能な消費生活・環境」(1)生活における経済の計画

#### 【高等学校学習指導要領 2 内容】

指導項目	思考力, 判断力, 表現力等
C(1)	イ (思考力, 判断力, 表現力等) の指導事項

#### 【内容のまとめりとごとの評価規準 (例)】

	思考・判断・表現
C(1)	「思考・判断・表現」に関わる「内容のまとめりとごとの評価規準」

#### 【内容のまとめりとごとの評価規準 (例) を具体化した例】

思考・判断・表現
<ul style="list-style-type: none"><li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定している。</li><li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について考え, 工夫している。</li><li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について, 実践を評価したり, 改善したりしている。</li><li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性についての課題解決に向けた一連の活動について, 考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</li></ul>

#### 思考・判断・表現のポイント

教科及び科目の目標の(2)に示されている学習過程に沿って, 各単元において, 次に示す四つの評価規準を設定し, 評価することが考えられる。ただし, これらの評価規準は, 各単元の構成に応じて適切に位置付けることに留意することが必要である。

①家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし, 解決すべき課題を設定する力については, その文末を「～について問題を見いだして課題を設定している」

②解決の見通しをもって計画を立てる際, 生活課題について多角的に捉え, 解決方法を検討し, 計画, 立案する力については, その文末を「～について (実践に向けた計画を) 考え, 工夫している」

③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については, その文末を「～について, 実践を評価したり, 改善したりしている」

④計画や実践について評価・改善する際に, 考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する力については, その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について, 考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している」

## 2-2 単元の学習評価の進め方

### (3) 単元の評価規準を学習活動に即して具体化する

例: 「C持続可能な消費生活・環境」(1)生活における経済の計画

#### 【高等学校学習指導要領 2 内容】

指導項目	学びに向かう力, 人間性等
C(1)	※該当科目の目標(3)を参考にする。

#### 【内容のまとめりごとの評価規準(例)】

	主体的に学習に取り組む態度
C(1)	「主体的に学習に取り組む態度」に関わる「内容のまとめりごとの評価規準」

#### 【内容のまとめりごとの評価規準(例)を具体化した例】

#### 主体的に学習に取り組む態度

- ・様々な人々と協働し, よりよい社会の構築に向けて, 生活における経済の計画について, 課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
- ・様々な人々と協働し, よりよい社会の構築に向けて, 生活における経済の計画について, 課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
- ・様々な人々と協働し, よりよい社会の構築に向けて, 地域社会に参画しようとするとともに, 生活における経済の計画について, 自分や家庭, 地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

#### 主体的に学習に取り組む態度のポイント

・基本的には, 三つの側面から評価規準を設定し, 評価することが考えられる。ただし, これらの評価規準は, 各単元の構成に応じて適切に位置付けることに留意することが必要である。

- ①粘り強さについては, その文末を「～について, 課題の解決に主体的に取り組もうとしている」
- ②自らの学習の調整については, その文末を「～について, 課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」
- ③実践しようとする態度については, その文末を「～について(地域社会に参画しようとするとともに), 自分や家庭, 地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている」

## 2 - 2 単元の学習評価の進め方

### (3) 単元の評価規準を学習活動に即して具体化する

指導項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C(1)	「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を具体化した例		
C(2)	「内容のまとめりごとの評価規準（例）」を具体化した例		



	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元「成年として自立した経済生活を営むには」の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上責任の違いについて理解している。</li> <li>クーリング・オフ制度の他、契約がキャンセルできる場合について理解している。</li> <li>給料の仕組み、家計の構造(可処分所得、非消費支出)について理解している。</li> <li>多様な契約の仕組みや使い方について理解している。</li> <li>国民生活センターや消費生活センターのホームページから、財やサービスに関する正確な情報、被害防止策についての情報を適切に収集・整理できる。</li> <li>消費者の権利と責任について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、適切な意思決定に基づいて行動することなどについて、問題を見いだして課題を設定している。</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージと関連付けて、課題解決に向けて考え、工夫している。</li> <li>自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、課題解決に向けて考え、工夫している。</li> <li>自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、実践を評価したり、改善したりしている。</li> <li>自立した消費生活を営むために、家計の管理や計画、適切な意思決定に基づいて行動することなどについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、課題解決に主体的に取り組む、解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>自立した消費者として消費者の権利と責任や消費者問題に関心をもち、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実に実践しようとしている。</li> </ul>

事例1 指導と評価の計画から評価の総括まで  
「成年として自立した経済生活を営むには」

事例2 「思考・判断・表現」の評価  
「生涯を見通して、自分らしい人生をつくる」

事例3 「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」の評価  
「C 持続可能な消費生活・環境（3）持続可能なライフスタイルと環境」との関連  
「食生活と健康」

事例4 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価  
「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」



# 新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 家庭科 (共通教科「家庭」))

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 山村 季代